

〃	7.21	20	20										0		
〃	7.28	20	20										0		
〃	8. 4	20	19	1									1 (5 %)		
〃	8.11	20	20										0		
〃	8.18	20	20										0		
〃	8.25	20	20										0		
〃	9. 1	20	19	1									1 (5 %)		秋田市-1
〃	9. 8	20	19	1									1 (5 %)		秋田市-1
〃	9.17	20	19				1						1 (5 %)	1(100%)	秋田市-1
〃	9.25	20	17						1	2			3 (15%)	1 (33%)	秋田市-1 南秋田郡-2
〃	10.13	20	6							4	10		14 (70%)	0	南秋田郡-14 ※
〃	11.25	20	20										0		※
〃	12.12	20	19		1								1 (5 %)		秋田市-1 ※
計		420	396	4	2		1		1	6	10		24(5.6%)		

※ 厚生省委託事業以外の調査

表 3. 昭和50年度日本脳炎流行予測調査（と畜場豚のH I 抗体価測定）

と 畜 場 名	採 血 年月日	検査 頭数	H I 抗 体 価										H I 陽性数 ≥10 (陽性率)	2 M E 感受 性抗体保有 数(保有率)	H I 陽性豚の飼 育地および頭数
			<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	≥ 2560			
大 館 と 場	S.50 7.24	20	20										0		
〃	8.26	20	20										0		
〃	9.22	20	20										0		
小 計		60													
横 手 と 場	S.50 7.22	20	19			1							1 (5 %)		平鹿町-1
〃	8.25	20	19	1									1 (5 %)		平鹿町-1
〃	9.29	20	18							2			2 (10%)	0	横手市-1 大雄村-1
小 計		60													
計		120	116	1	1					2			4(3.3%)		
表 2.3. }	合 計	540	512	5	3		1			3	6	10	28(5.2%)		

表 2. } 合	計	540	512	5	3		1		3	6	10		28(5.2%)			
----------	---	-----	-----	---	---	--	---	--	---	---	----	--	----------	--	--	--

%にあったが、2 ME感受性抗体は認められなかった。

次に、県単独調査として県北部の大館と場、県南部の横手と場の豚血清を、昭和50年7月から9月までの期間調査し、表3に示す結果を得た。すなわち、横手と場豚においては7月から9月までの期間に日本脳炎H I 陽性豚（陽性率 3.3%）の若干出現がみられたが、昨年度の日本脳炎H I 陽性率 6.7%よりも低率であった。また、大館と場においては7月から9月までの3ヶ月間日本脳

炎H I 陽性豚の出現は認められなかった。

このように、本年度においては全般的に県内各と畜場豚の日本脳炎H I 陽性率が低い傾向を示したことから、この要因を今後解折していく考えである。

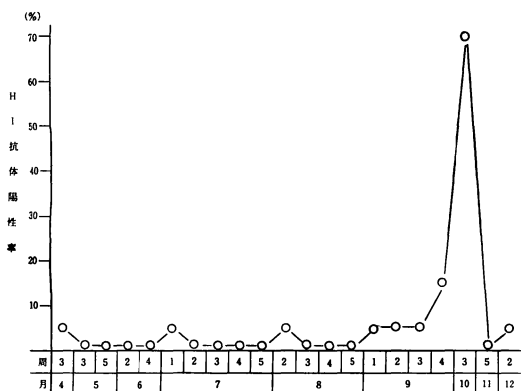


図 1. 昭和50年度日本脳炎 H I 抗体調査成績
(対象：秋田畜産公社と場豚)

IV ま と め

昭和50年度の厚生省委託及び県単独の日本脳炎流行予測調査成績は次のとおりであった。

- 1) 県中央部の秋田畜産公社と場における日本脳炎 H I

陽性率は 5.6%で昨年度の H I 陽性率 9.2%よりも低い傾向を示した。また、10月の第3週目に70%の高値の H I 陽性率を示し、本年度の H I 陽性率のピークを示したが、2 ME感受性抗体は認められなかった。

2) 県単独調査としては、横手と場が、大館と場よりも豚の H I 陽性率で 3.3%と高く、大館と場豚の約3倍であった。

稿を終るにあたり、と場豚採血に御協力をいただいた秋田保健所、大館保健所、横手保健所、秋田畜産公社の担当各位に深く謝意を表します。

文 献

- 1) 須藤恒久たち：秋田県に於ける日本脳炎ウイルスの侵淫について昭和42年日本脳炎流行予測事業を中心として、秋田衛研所報，No.12，71-76 (1968)
- 2) 厚生省公衆衛生局保健情報課：昭和50年度伝染病流行予測調査実施要領 (1975)